令和3年度 10 月22 日（金） 市長記者会見 会議録

＜ 開催時間 ＞　　14:00～

＜ 会 場 ＞　　庁議室（ 市役所本館3階 ）

＜ 会見案件 ＞　　①9 月補正予算の概要
②民間事業者によるイメージロゴ「福いいネ!」の活用について

＜ 出 席 者 ＞　　市長、副市長、総務部長、商工振興課長、農政企画課長、園芸センター所長、
林業水産課長、ワクチン接種推進課長

＜ 発 表 内 容 ＞

新型コロナウイルス感染症は、拡大の波が少し落ち着いてまいりました。それぞれの都道府県に出されていた緊急事態宣言やまん延防止等重点措置も全国的に解除され、福井県におきましても感染拡大警報が解除されました。

しかし、これに油断することなく、市民の皆様には、引き続き感染拡大防止対策を行っていただきたいと思います。

本市におきましても、「Withコロナ」の取り組みが重要となってくることから、地域経済を下支えする各種施策を実施してまいりますので、本日は、それらを中心にご報告させていただきます。

まずは、9 月補正予算に計上した、「ふくい元気買い福（回復）キャンペーン」についてご説明いたします。

この事業は、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中で、買い物や飲食などの消費を促し、落ち込んだ地域経済を活性化するため、県が実施している「ふく割」を活用して、市内小規模店等で使用できる新たな電子クーポンを発行するものです。

先週の10月15日に発行した「ふく×ふく割」は、本市の商業を支える小規模店舗で利用できるクーポンです。

また、コロナによって大きな影響を受けた飲食店で使用できる
「ふく×ふく飲食割」や、特にまちなかでの消費を促す「まちなか割」も、今後順次発行してまいります。

さらに、お正月に向けて「おせち割」の発行も計画しており、12 月下旬までの期間において3億円相当のクーポンを発行し、約12億円の消費を見込んでいるところです。

是非このクーポンをご利用いただき、市内のお店を応援していただければと思います。

次に、9 月末にオープンしました福井市農林水産物等販売サイト「ふくいさん」についてご説明いたします。

「ふくいさん」は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた生産者の方々を支援するため、福井市自慢の海、山、里の恵みを、ネットを通じて全国へ情報発信し、販路開拓を行うことを目的としております。

生産者の皆さんが心を尽くした品物が出来上がるまでのストーリーなども発信しており、本市のイメージアップや、農林水産業への就業をはじめとする、移住・定住、交流・関係人口の増大など、様々な分野へ波及していくことを期待しています。

現在、旬の野菜の詰め合わせやお米など 30 事業者の 53 商品を取り扱っており、今後は、越前がにやオリーブ、越前水仙など、季節の魅力的な商品を掲載し、サイトをより充実させてまいります。

併せて、福井市 食のPR大使であるEXILEの橘ケンチ氏が登場するPR動画もサイト上で公開します。季節によって違った福井の魅力を発信する内容となっておりますので、こちらの方も是非ご覧いただければと思います。

本日は、その触りの部分をご覧いただきます。

より多くの県内外の方々にECサイト「ふくいさん」を利用していただき、本市農林水産物の魅力を発信していきたいと考えております。

次に、「福井市産　越前がにを食べて福いいネ!キャンペーン事業」についてです。

11月6日に越前がに漁が解禁されますが、本市で水揚げされるオスのズワイガニには、その証として、昨年から「福いいネ!」タグを取り付けていただいております。

本年は、12月31日までの約2か月間、その写真をインスタグラムに投稿すると、抽選で地元水産加工品のプレゼントが当たるキャンペーンを実施します。

このようなかたちでタグが付きます。

この機会に、ふくいが誇る冬の味覚「越前がに」を多くの方にご賞味いただくとともに、地元水産加工品の美味しさにも触れていただくことで、消費拡大・観光誘客につなげていきたいと考えております。

次に、おいしいふくい大博覧会についてです。

市民の皆様に「福井の食」の魅力を再発見していただくため、
11月10日から15日までの6日間、西武福井店において、「おいしいふくい大博覧会」を開催いたします。

今回で8回目となるこの催事ですが、今年は「魅惑の秋グルメ」をテーマに約20店舗が出店します。

会場では、「ふくいの恵み」認定商品をはじめ、贅沢なお肉やせいこ蟹を使った上質な食のほか、連携中枢都市圏内から話題のイタリア菓子マリトッツォなど、バラエティ豊かに取り揃え、販売します。さらに、昨年好評を得た、福井の食の福袋「福いいネ!袋」を今年も販売します。

是非、会場に足をお運びいただき、「おいしい　ふくい」を満喫していただきたいと思います。

次に、まちなかの賑わい創出についてご説明いたします。

まず、2年ぶりの開催となる「ONE PARK FESTIVAL 2021」が、11月13日（土）、14日（日）の両日、中央公園で開催されます。

2年前の開催では、県内外から約1万人のファンが訪れ、福井の魅力を存分に体感できる音楽フェスとして話題となりましたが、昨年はコロナで開催が叶わず、また、今年も当初予定の7月から延期となるなど、関係者やファンにとっては待ちわびた開催となります。

本市としましても、ふるさと納税を活用したガバメントクラウドファンディングにより、安全で魅力的な、コロナ禍における音楽フェスのモデルとなるよう協力してまいりますので、皆さまのご支援をよろしくお願いします。

次に、農林水産業の振興、地産地消、食育の推進などを目的とした催しについてご説明します。

本年7月から、アップルロードにおいて定期的に開催しておりました「越前ふくいマルシェ」につきまして、今年度最後となる11月23日には規模を拡大し、旬の農産物や加工品のほか、ジビエのふるまいや木工クラフト体験など、ハピテラスを会場として開催します。

また、同時に三里浜砂丘地の野菜と果樹を PR する「さんりはまベジフル感謝祭」を今年度初めて開催します。高校生が考案したメニューのふるまいやポスター展示、さらにはオリーブ加工品等の販売など、盛りだくさんの内容で農林水産業の魅力を存分に楽しんでいただける催しとなっています。

皆様のご来場をお待ちしております。

次に、その他としまして、新型コロナワクチン接種についてお知らせいたします。

まず、接種の状況についてですが、これまで、新型コロナワクチン接種については、10月末までに接種対象者の８割の方が接種を終えられるよう、取り組みを進めてきたところです。

10月20日現在、接種対象者の 85.7%が1回目の接種を終えており、2 回目接種を完了した方は 75.9%となっております。

このまま推移すれば、今月末には、目標とする8割の方への接種を完了できるものと見込んでおります。

次に、接種の体制についてです。今後の接種体制につきましては、接種の進捗に合わせて、段階的に縮小してまいります。

具体的には、個別接種については、11月以降は状況に合わせて実施するとともに、集団接種については11月6日の土曜日は防災センター、7日の日曜日はサブアリーナで接種を行い、その後は、新たに12歳の誕生日を迎えられる方を主な対象として、毎週土曜日の午後、サブアリーナで接種を実施してまいります。

私からは、以上です。

＜ 質 疑 応 答 ＞

【広報課長】

それではただ今説明がありました案件につきまして質疑応答を行います。ご質問される際にはマイクをお渡ししますので、社名、名前の後にご質問をお願いいたします。

【福井新聞】

コロナの状況が落ち着く中、これからカニのシーズンなどを迎えますが、市民の外食や宿泊の利用促進について、今後感染対策を取ったうえでの呼びかけとなると思います。改めてメッセージをいただけますか。

【市長】

ワクチン接種率が順調に進む中、他の県も含め感染者の数が０という日も増えてきました。しかし、安心し過ぎると第６波という影響が出てこないとも限らないため、感染拡大しないような対策はしっかりと取っていただく必要があります。

また、12月には 3 回目のワクチン接種も始まるため、情勢をみながら少しずつ活動を行っていくことも必要だと考えています。

【福井新聞】

6 月の補正予算のときは、宿泊滞在型観光促進事業としての宿泊代金の一部を割引く補正予算が計上されていましたが、開始時期はいつごろでしょうか

【市長】

冬のカニの時期に向けて、現在準備しているところです。

【福井新聞】
昨年は近隣の県と連携して北陸エリアでの宿泊などを呼びかけるキャンペーンを行ったが、今の情勢を踏まえて広域での取り組みの必要性についてどうお考えでしょうか

【市長】
必要性はあると考えています。ただ、昨年はカニの値段の変動が大きく、その影響が人の足を遠ざけたところもあったので今年は状況を見ながら縮小気味でもいいかと思っています。

【福井新聞】
ワクチン接種について、目標にしていた 10 月末にワクチン接種が 8 割完了の見通しとのことだが、市長として、ワクチン接種体制など評価をお聞かせください。

【市長】
最初に国から8割接種完了を目指す話がありました。短期間で動き出す必要があったため、市職員だけでできることではなく、医師会、薬剤師会、看護協会などの協力をいただき、連携した体制を築けたことが今回の成果につながったと考えています。

【福井新聞】
ワクチンは、国からの供給が不透明だったため、一時はワクチン接種の停止など対応もいろいろあったと思いますが、それついてはどのように振り返りますか。

【市長】
ワクチン接種については、国民も心配をしながら打っているので、ワクチンが十分にないことで接種当日にワクチンを打てなかった場合、改めて打ちに行くことが難しくなります。そのため、我々としてもできるだけ接種予定日が変わることなく打てるように意識していましたが、結果的にワクチンが少し足らず、変更を行っていただくこともありました。とはいえ、イレギュラーな対応もあった中、順調に進んだ方だと思っています。

【福井新聞】
ワクチンの 3 回目接種が 12 月に始まりますが、今後の接種体制について考えはありますか。

【市長】
まだ国から詳細が届いていないため、準備はしているが周知できる状況ではありません。またあらためて周知します。

【福井新聞】

いつまでに周知したいとお考えでしょうか

【市長】

今選挙の最中だということもあり、なかなか難しいところもありますが、3 回目のワクチン接種は 12 月から始めるという話ですので、11 月の中旬頃までにはご連絡したいと思っております。

【福井新聞】

ありがとうございました。

【福井テレビ】

福井テレビの大久保です。3 回目のワクチン接種関連で、11 月中旬ごろまでには、スケジュール等をご案内したいとの話でしたが、それはその時点で、わかる範囲でまとめてお知らせしたいということでしょうか。

【市長】

その時期には、今おっしゃったことより熟度の高い形としてお知らせをしないと、後々の計画が順調に進まないのではないかと思っています。

【福井テレビ】

ありがとうございます。

【読売新聞】

政府が若者は 2 回目接種の時にモデルナではなくファイザーを接種するようにという勧告があったと思うのですが、その対応についてどのようにお考えですか。

【ワクチン接種推進課長】

10 代・20 代の男性については、モデルナを接種すると心筋症の恐れがあるということも言われております。1 回目はモデルナを接種して、2 回目ファイザーを接種希望する方につきましては、県とも調整しながら 2 回目ファイザーを打てるように対応をしているところです。そのことについはホームページ等でもお知らせしております。

【読売新聞】

基本的には、個別に相談して個別に対応するということでしょうか。

【ワクチン接種推進課長】

はい、その通りです。

【広報課長】

他に質問がないようですので、これにて市長記者会見を終了いたします。誠にありがとうございました。